

## 文化・芸術

### 「散歩」

1971年、油彩・カンバス  
62・7号×33・3号

渡邊 保 (1934年)

1949年、中学校3年生の折、小野里利信(オノサト・トシノブ)に出会い、美術の授業を受けた渡邊保さんは、絵を描くこと、みることの自由に感化されました。

58年に大学を卒業後は、県内の小中学校で図工・美術科教諭として94年まで勤務。退職後は約10年間、中学校でスクールカウンセラーを続けました。この間、現在にいたるまで60年以上にわたり桐生の地で制作発表をつづけています。

長年、人の心に興味を持ち描いてきた渡邊さんは、「絵を観(み)るとは、自分の心を絵に映して観る行為」と語ります。

今からちょうど50年前に描かれた本作。手袋は、まだ幼かったわが子のもものと振り返ります。遠くには、みずみずしい風景が見えてはいるけれども、それはたして現実のものなのかどうか。手袋に結ばれた毛糸を地面に追っていくうちに、異様な世界に引き込まれてゆくようです。

(小此木)

大川美術館企画展  
「描かれた桐生の『昭和』」から

### 名画の扉

